



《会計・税務の知識》 GPIF について知る

はじめに

近年運用損失が話題となっている、年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）について今回はその概要をご紹介します。

1. 収益額（運用手数料控除前）の推移

単位：億円

	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度
収益額	-5,874	-24,530	48,916	26,127	89,619	39,445	-55,178	-93,481	91,850
	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	15年間累積 (13～27年度)		
収益額	-2,999	26,092	112,222	102,207	152,922	-53,098	454,239		

なお、直近平成28年度第1四半期の収益額は△5兆2,342億円、累計収益額は+40兆1,898億円、直近平成28年度第1四半期末現在の運用資産額は129兆7,012億円となります。

運用開始からの累計収益額が+40兆1,898億円…とてつもない金額ですね。

2. 基本ポートフォリオの推移

	従来	新たな目安（平成26年10月～）
国内債券	60%（±8）	35%（±10）
国内株式	12%（±6）	25%（±9）
外国債券	11%（±5）	15%（±4）
外国株式	12%（±5）	25%（±8）
短期資産	5%	0

アベノミクス政策に歩調を合わせるかたちで、GPIFが国内債券割合を下げ、株式割合を引き上げていることがわかります。

3. 各国公的年金とGPIFとの比較

資産規模（平成28年3月末）

（単位：兆円）

CalPERS（アメリカ）（カリフォルニア州職員退職年金基金）	33
CPIIB（カナダ）（カナダ年金制度投資委員会）	24
GPF-G（ノルウェー）（ノルウェー政府年金基金－グローバル）	96
年金積立金管理運用独立行政法人（GPIF）	135

基本（参照）ポートフォリオ（平成28年3月末）

CalPERS	債券 20%	株式 61%	その他資産 19%
CPIIB	債券 28%	株式 72%	
GPF-G	債券 35%	株式 60%	
GPIF	債券 50%	不動産上限 5%	株式 50%

グラフのとおり、海外の公的年金の運用状況と比較しても、日本だけが過度に株式の運用割合が高いわけではないようです。

おわりに

近年の運用損失が大きく取りあげられておりますが、運用累計実績では40兆円のプラスであることも知識としてあったうえで、今後のGPIF運用状況をモニタリングしていくことが大事かと考えます。また、各国制度との比較はその国の運用目標が異なっていることから一概には比較できませんが、日本だけが過度に株式に偏った運用をしているわけではない、ということも他国との比較でいえるのではないのでしょうか。

（担当：高橋 ※出典：GPIF HP より）